



林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

飛鶴の森林から

第72号

当ふれあいセンターは、国有林をフィールドとして北海道の多様な自然との共生に向けた自然再生活動に取り組む NPO 等の活動支援、森林環境教育等に携わる教育関係者の支援・技術指導等を行っています。

第5回「雷別ドングリ倶楽部」活動

2月13日(水)、雷別ドングリ倶楽部会員15名が参加して今年度最後の活動を実施し、①「冬芽の観察会」、②「来年度の雷別ドングリ倶楽部活動予定の打合せ」を行いました。

「冬芽の観察会」では、参加者全員が防寒衣を身にまとい、根釧西部森林管理署の前庭や釧路市春採公園にある樹木を利用してミズナラ、シラカンバ等の冬芽をじっくり観察しました。

観察会終了後は、室内に移動して平成25年

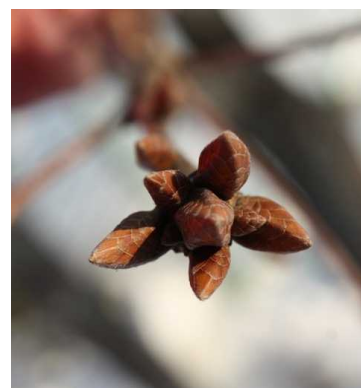
度「雷別ドングリ倶楽部」活動予定について意見交換を行いました。来年度は、これまでの活動に加えて「ボランティアリーダーとして活動できるような勉強会」なども積極的に実施することとし、今後、センターが行う各ボランティア活動に「ボランティアリーダー」としても積極的に参加することなどを決め、今年度の活動を終わりました。



事務所周囲で冬芽を観察



春採公園でも観察を実施



観察したミズナラの冬芽

第18回 釧路湿原自然再生協議会が開催

2月19日(火)、釧路湿原で実施している自然再生について関係機関や市民等が話し合う釧路湿原自然再生協議会が、釧路市国際交流センターで開催されました。

当日は、協議会の収支報告、各小委員会からの開催報告のほか、達古武湖自然再生事業実施計画(案)等について話し合われました。当センターからは、雷別地区自然再生事業の実施状況について報告を行いました。



会議の様子

【不連続企画】

パイロット フォレスト

第1回 「パイロットフォレスト」とは

北海道東部、釧路市から東北に約 50km、厚岸湖に注ぎ込む別寒辺牛（べかんべうし）川の上・中流部に位置する国有林のうち、計画的に造成してきた 10,778ha の森林を「パイロットフォレスト」と呼んでいます。パイロットフォレストは、かつて「死の大地」とまで呼ばれた不毛の荒野でしたが、先人達の不断の努力により広大な森林として甦りました。

パイロットフォレスト造成以前は、開拓の火入れによる失火等のため、毎年のように発生した山火事により森林は消滅し、永い年月の間、広大な原野として放置されてきました。造成事業には幾多の困難が待ち受けていま

ましたが、これまで蓄積した造林技術に創意と工夫を加えて困難を克服し、現在は湿原を除く区域のほぼ全域がカラマツ人工林を主体とする森林で占められています。

では、なぜ「パイロットフォレスト」と呼ばれるようになったのでしょうか。

根釧台地では、同時期に「パイロット・ファーム」が開始されました。パイロット・ファームと同様に先進的な機械を導入して、近代的な林業を実践するパイロット（水先案内人）となるよう名付けられたものです。そのため、造成初期には毎日のように世界中から視察団がこの地に来訪しており、当時の営林署ではその対応でも大変だったとの記録が残っています。



現在のパイロットフォレスト（望楼から望む）

釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

〒085-0825 釧路市千歳町6-11

TEL 0154-44-0533 FAX 0154-41-7305

URL http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/kusiro_fc/index.html

E-mail h_kusiro_f@rinya.maff.go.jp